

北原 白秋

青玉のしだれ花火のちりかかり消ゆる路上を君よいそがむ

白き猫庭の木賊の日たむろに眼はほそめつつまだ現なり

水うちて赤き火星を待つ夜さや父は大き椅子に子は小さき椅子に

群れわたる鳥かげ見れば秋空やただにひとすぢの道通るらし

〈出典 『日本詩人全集7 北原白秋』(新潮社、一九六七年)〉

【著者】北原 白秋(きたはら はくしゅう)

一八八五(明治一八)年—一九四二(昭和一七)年

詩人、歌人、童謡作家。福岡県の生まれ。

【著書】詩集『邪宗門』、歌集『桐の花』、童謡集『赤い鳥』など